

# こども通信

## 塚田こども医院

小児科・アレルギー科  
漢方内科  
.....  
上越市栄町 2-2-25  
TEL 025-544-7777(代)  
025-544-7779(保育室)  
FAX 025-544-8456  
.....

ホームページ  
www.kodomo-  
iin.com



秋が深まり、肌寒い日も多くなりました。冬の訪れが例年より早いとか。そろそろ冬の準備に取り掛からなくてはいいですね。

コロナも少し落ち着いているようです。旅行など、節度を持ちながら楽しんでください。

\* \* \*

「スポーツの秋」でしたが、皆さんは何か取り組みましたか？ 私は久しぶりにマラソン大会に出場しました。それも60キロのウルトラマラソンです。

しかし結果はあえなく途中棄権。30キロ時点でタイムオーバーになりました。残念という気持ちもありましたが、もつこれ以上走らなくていいんだというのが正直なところでした(情けない)。



以前この大会で完走したこともあり、何とかなるだろうという「根拠のない楽観」。しかし圧倒的な練習不足(↑変な表現)が、私の行く手を阻みました。

コロナ禍でマラソン大会はほとんど中止。今年に入ってから再開してきたものの、3年近いブランクは大きかったです。大会がないと、やはりモチベーションが下がり、練習に力が入らなくなります。

多少言い訳がましいですが、今年に入ってから、子どもたちのコロナ患者が多数発生するようになり、小児科外来は繁忙が続いています。そのお陰で、どうしても練習に時間が取れなくなりました。

思い起こすと、私の人生の転機は

## 感染症情報

新型コロナウイルス感染症は先月、ようやくピークアウトしたようですが、その後は下げ止まり。むしろまた増加に転じているようにも思われます。このまま再燃し、場合によっては第8波になる可能性も指摘されています。冬場は元々風邪ウイルスが流行しやすく、また行動制限がなくなっていることから、今後の動向がとても心配です。十分に気をつけて過ごしてください。

今、子どもたちの間ではいくつかの感染症が流行しているために、「発熱外来」はとても混雑している状況です。コロナを確実に見分けるためには、トリアージの他、発熱などの感冒症状があるお子さんには広くコロナの抗原検査を受けていただく必要があります。引き続きご協力をお願いします。

具体的にはRSウイルス感染症とヒトメタウイルス感染症の流行が見られています。いずれも呼吸器症状が強く、乳児では呼吸困難を起こすことがあります。園での集団発生がおきやすく、注意が必要です。

手足口病とヘルパンギーナの流行がほぼ収束したようです。

感染性胃腸炎は少数の発生です。冬場に流行しやすいので、これからの季節は要注意です。

このほかでは溶連菌感染症、アデノウイルス性咽頭炎などが少しずつ発生があります。いずれも喉の痛みが特徴です。

インフルエンザは、当地ではまだ発生していないようです。

## 今月の予定

### 院長・副院長出務

- 上越市立有田保育園健診 2日
- わくわくちびっこ園健診 2日
- 永年勤続職員表彰式(医師会) 16日

### 上越有線放送「健康ライフ」15日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」  
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

### 感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～  
上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)  
医院ホームページ内

## コロナワクチン

## 乳幼児も始まります

新型コロナウイルス感染症は、今は第7波がピークアウトして、多少は落ち着いていた状況です。しかし、このまま収束すると考える人はいないでしょう。早晩また流行がぶり返し、第8波になるかもしれません。

## ●子どもが感染の主演

今年1月から始まったオミクロン株による第6波以降の特徴は子どもへの感染が急増したこと。家族、親戚、園や学校のクラスなど、身近にコロナが迫ってきていて、緊迫した日々を過ごされたことでしょう。

## ●生後6か月～4歳のコロナワクチン

## ①3回がセット

1回目から3週間後に2回目、その8週間後に3回目

## ②接種量は10分の1

1回の注射量は0.2ml、成分量としては成人用ワクチンの1/10

## ③効果と副反応

約7割の発症予防効果。発熱を含めて副反応の頻度は成人より低く、重篤なものはまれ

当初は子どもはかからない（かかりにくい）と言われていましたが、現在は子どもの方が感染しやすく、そこから家庭内で成人や高齢者にうつっていく例が多くなりました。様相がずいぶん変わりました。

それでも子どもは軽いし、感冒の対処をしていれば（熱があれば熱冷ましを使うなどの対症療法）通常は数日で症状が治まり、1週間の療養期間が過ぎれば通常生活に戻れることでしょう。

しかし、全ての子どもたちが軽症だとは言えないようです。次第に死亡例も多くなってきました。乳児に多く、さらに発症から数日での急変が多いようです。また半数は基礎疾患を持たない、普通の健康な子どもたちでした。

データをお示しします。

感染症の実地疫学研究センターと感染疫学センターは日本小児科学会、日本救急医学会などの関係学会と協力して、今年1～8月にコロナ感染後に死亡したとの報告があった20歳未満の41人を対象に調べた。41人のうち詳しく調査できたのは32人

で、このうちコロナ感染が関係したと判断された29人について分析した。亡くなったのは年齢別に0歳が8人(28%)、1～4歳が6人(21%)、5～11歳が12人(41%)、12～19歳が3人(10%)。性別は男性16人(55%)、女性13人(45%)だった。(科学技術振興機構より)

さて、どうでしょうか。やはり新型コロナウイルスが変異し、今は子どもたちがターゲットとされ、脅威にさらされているという状況が理解していただけるかと思えます。

## ●乳幼児にもワクチンを

こういったことから、子どもたちのワクチン接種もとても重要と考えられるようになりました。すでに行なっている5歳～11歳用のワクチンは、日本小児科学会と日本小児科医学会は「強く推奨する」と改めました。国も「努力義務」と位置付けました。そして、今は3回目の接種を実施中です。(これまで接種を受けていない対象者は、ぜひ早めに受けるようにしてください)

さらに新たに生後6か月～4歳用

のワクチンが導入されました。これは最初から「努力義務」の扱いです。

この乳幼児用ワクチンは3回がセットです(1回目から3週間後に2回目、その8週間後に3回目)。1回の接種は、成分量で大人用ワクチンの10分の1と少量で、重症化予防に重点が置かれています。感染予防効果も確かめられています。

5歳～11歳のワクチン接種をしていて、大人よりも発熱などの副反応が軽微だと感じています。乳幼児のワクチンについても、海外での使用例からは重い副作用は報告されていません。安心して受けていただきたいと思います。

すでに接種の始まった自治体もあります。ここ上越市では12月から接種が始まります。市内の医療機関での個別接種です。当院も専門外来を特設して対応します。

ぜひ多くの子供たちに接種を受けていただき、感染を予防するとともに、重症化を予防して欲しいと思います。それはまた間接的に高齢者などの「コロナ弱者」を守ることに繋がります。